

地域の絆で 支えあうまちづくり



土佐清水市 第2期
地域福祉計画

実践事例の紹介

平成25年3月 土佐清水市

はじめに

平成23年3月「土佐清水市第2期地域福祉計画」が策定されました。
この地域福祉計画は、平成24年度～平成28年度までの5年間の計画期間として基本構想「地域の絆で支えあうまちづくり」を掲げ、市内全域でしあわせのまちづくりに向けた活動に取り組んでいこうという計画です。

平成24年度は、第2期地域福祉計画住民座談会を市内13カ所で開催しました。そして、地域の良さや課題に目を向け、地域ごとに目標を立て、さまざまな取り組みをそれぞれの地域で始めています。

ここでは、いくつかの事例を紹介します。



第2期地域福祉計画住民座談会を通して



①地区目標を立てよう



誰が取り組む？何を？いつから？
細かく具体的に計画を立てました。

②意見を共有しよう



各グループからの発表をして
意見を共有しました。

③活動が始める、その前に…



多くの人に協力してほしいので
地区総会で計画の周知をしました。



グループ別で話した意見をまとめて
活動の方向性を決めました。



住民みんなの計画をつくるため
もう一度住民座談会を開きました。

地区目標をもとに始まった地域の取り組みを紹介します。

事例①

下川口郷

目標 「地域の絆を深める為の交流の場所づくり」



「近くに喫茶店があったらいいのに…」 「みんなが気軽に集まれる場所をつくりたい。」そんな声をきっかけに、地域のボランティアを中心に区長場で喫茶店“喫茶ちょっこり”を開店することになりました。“ちょっこり”とは、地元の人たちがよく使う言葉で“ちょっと、気楽に”の意味です。「喫茶ちょっこりにちょっこり行こうや！」と誘いあい、どんどん人が集まってきます。居心地の良さからか数時間ゆっくりと過ごす人もいます。最初は少人数で始めた喫茶店でしたが、「何か手伝えることはない？」 「畑で採れたけんもってきたで。」と活動を支える輪も広がりをみせています。

子ども民生委員がちょっこりを訪問しました。



喫茶ちょっこりと同じ地区にある土佐清水市立下川口小学校6年生の児童が、地域の方と交流をしようと、子ども民生委員として民生委員と共に高齢者宅の訪問活動を行いました。そして喫茶ちょっこりへ来店し、さらに交流を深めました。地域の人に愛される喫茶店をこれからも続けていきたい。この場所を活用して昔遊びを教えたり、趣味の教室も開きたい… みんなの夢が膨らむ喫茶店です。



事例②

鍵掛

目標「伝統行事を続けたい」



少子高齢化が進む中で伝統行事の継承はどの地域でも課題になっています。そんな中、この地域にしかない“お地藏さん”の祭りを守り続けていきたいと、鍵掛地区では伝統行事の継承を目標に取り組んでいます。

年に3回行われているお地藏さんでは、参加者全員でお経を読んだ後に奉納した紅白団子とお菓子を分け合います。紅白団子には「食べると子宝に恵まれる」という噂があり、県内外から子どもを授かりたいという人が訪れます。「お地藏さんのおかげで子どもが生まれました。」という感謝の声があり、さらに祭りを途絶えさせてはならないという気持ちが高まっています。

事例③

貝ノ川浦

目標「災害に強いまちづくり」



目の前に広がる太平洋。海岸に面する貝ノ川浦地区では、普段から避難訓練に取り組んでいる地域です。しかし、東日本大震災によって危機感、不安感はますます高まっていました。

住民座談会では防災について話し合わせ、まずは一人ひとりの防災意識を変えよう、知識を高めようと、市役所の防災担当職員を招いて防災学習会を開催しました。津波浸水の想定や実際の津波映像を見て、従来の避難訓練の見直しや夜間の避難訓練の実施、避難道の整備などに取り組もうと話し合いました。

災害に強いまちづくりのために一人ひとりが自ら動き出しています。

事例④

市野々

目標「秋祭りに向けて花いっぱい運動」



市野々地区では11月に行われる天満宮の秋祭りにコスモスの花を咲かそうと、地元の有志が休耕田を活用した花いっぱい運動に取り組みました。夏の終わりに種を蒔いたコスモスが秋祭りの当日はちょうど満開を向かえ、参加者や訪れた人の心を和ませました。

秋祭りでは天満宮で伝統の太刀踊りなどが披露され、ピンク色のじゅうたんの中を神輿が進んでいきます。コスモスの花が伝統行事をさらに盛り上げてくれる市野々地区でしか見ることのできない秋の風景です。

事例⑤

立石

目標「お祭りで地域の絆を深める」



平成22年に立石地区の住民力で復活させた仁井田神社のお祭りも今年で3回目を迎えました。お祭りを継続していくことで住民力がますます高まり、地域の人との普段のかかわりも増えました。お祭りが地域にとっての絆づくりにつながっていることを実感しながら、これからも大切に続けていこうと目標を立てました。

毎年行っている伝統の太刀踊りは迫力のある大きな振りが特徴で観客を魅了します。さらにお楽しみくじや懇親会も開かれ、このお祭りを楽しみに帰郷する人もいます。

立石地区の絆を深めるためになくてはならないお祭りです。

事例⑥

斧積 目標「絆づくり」



斧積地区は「元気村おのづみ」として、これまでも積極的に地域おこしの活動を行なってきましたが、さらに絆づくりの場所を増やしたいという声があり、月に一度モーニングを区長場で行なうことにしました。店名はみんなで話し合い“喫茶げんき村”になりました。開店時間も地域の人がたくさん来てくれるように、斧積地区が活動し始める早朝7時30分から開店しています。

喫茶では、朝から賑やかな会話が聞こえます。そして、ボリューム満点のモーニングで朝からみんな笑顔満点です。

事例⑦

三崎浦 目標「高齢者が元気な地域づくり」



三崎浦地区では「元気な地域をつくりたい、そのためにも高齢者がずっと元気でいてほしい。」と話し合いました。まずは、地域の高齢者が参加するいきいきサロンや健康体操など多くの人が集まる場所へ元気に足を運んでもらおうと活動の幅を広げる取り組みを始めました。

いきいきサロンでは季節の行事を楽しんでもらうため、サロンのボランティアと地域の若者が協力してクリスマス会を開催しました。そして一人ひとりに声をかけながらプレゼントを手渡しました。普段から賑やかなサロンが行われていますがさらに笑い声と笑顔でいっぱいになりました。

事例⑧

下ノ段 目標「高齢者・障がい者との絆づくり」



地域の交流の場として下ノ段地区の有志が手作りで作った「めだかハウス」。その場所を活用して、一人暮らしの高齢者など地域の人を誘い合って絆づくりのための食事会をしています。食事会を開いている参加者たちには「地域の人の閉じこもりをなくしたい。」という思いがあります。みんなで集まり会話を楽しむ中で、人と人がつながることの温かさを実感しています。ここでは、いきいきサロンなどの地域の集まりへお誘いもしています。これからも地域の交流の場所で絆づくりをしていきます。

第2期地域福祉計画住民座談会で出された目標の参考例

自然を守り安心安全なまちづくり



「地域の美化活動」

「避難道の整備」

「防災計画・マップの見直し」

元気で支え合うまちづくり



「足腰を鍛える体力づくり」「太刀踊り・盆踊りを伝える」「声かけ・見守り運動」

「集う場所の参加を増やす」「地区合同でお祭りをする」「行事を通じた世代間交流」

「趣味の教室づくり」

地域の宝(人・物)を活かした魅力あるまちづくり



みんなで感じつながら支えあうまちづくり



おわりに

土佐清水市第2期地域福祉計画の実践は今年度スタートしたばかりです。ご紹介した事例の他にも、それぞれの地区が自分たちのペースでしあわせなまちづくりへの活動を始めています。

住民座談会を終えて各地域へ持ち帰った計画が、最初は小さな活動から始まり、人を呼び、人がつながり、みんなで助け合い、大きな活動になって地域全体へ広がってきています。その活動をより多くの地域へ広げていくために、この冊子が今後の活動の参考になれば幸いです。

「地域の絆で支えあうまちづくり」を目指して、みんなで取り組んでいきましょう。

“しあわせなまちづくり”を はじめよう！！



土佐清水市健康推進課

土佐清水市天神町11番2号
TEL:0880(82)1121
FAX:0880(82)5599

土佐清水市社会福祉協議会

土佐清水市寿町11番9号
TEL:0880(82)3500
FAX:0880(82)4047